

平成 30 年度

全国学力・学習状況調査の 結果について



平成 30 年 12 月
海老名市立有馬中学校

目 次

全国学力・学習状況調査について	P. 1
「国語に関する調査結果」と「今後の具体的な取組」	P. 2
「数学に関する調査結果」と「今後の具体的な取組」	P. 3
「理科に関する調査結果」と「今後の具体的な取組」	P. 4
「生徒質問紙の結果より」と「今後の具体的な取組」	P. 5
ご家庭で取り組んでいただきたいこと	P. 6



資料

学習・生活習慣と学力との関係

文部科学省が全国の児童生徒の調査結果を分析したところ、次のようなことがわかりました。
海老名市全体の分析でもまったく同じ結果が出ています。

次のような児童・生徒ほど、教科の平均正答率が高い傾向にあります。
(教科に関する調査、児童・生徒質問紙調査より)

【教科への関心・意欲・態度】

- ・国語、算数・数学に対する関心・意欲・態度が高い

【学 校 生 活】

- ・学級みんなで協力して何かをやり遂げうれしかったことがある
- ・先生は、自分のよいところを認めてくれていると思う

【基本的生活習慣】

- ・朝食を毎日食べる
- ・毎日、同じくらいの時刻に寝る

【社会に対する興味・関心】

- ・地域や社会で起こっている問題や出来事に興味がある
- ・新聞を読んでいる
- ・テレビのニュース番組やインターネットのニュースを見る事に興味がある

【家庭学習・読書】

- ・学校の授業時間以外での学習時間が長い
- ・自分で計画を立てて学習をする
- ・学校の宿題、授業の予習・復習をする
- ・読書が好き、読書時間が長い、学校や地域の図書館に行く頻度が多い

【家庭でのコミュニケーション】

- ・家の人と学校での出来事について話をする
- ・家の人は、授業参観や運動会などの学校行事に来る

【自尊感情・規範意識】

- ・ものごとを最後までやり遂げて、うれしかったことがある
- ・学校のきまり、規則を守っている
- ・人の気持ちが分かる人間になりたいと思う

【基本的生活習慣】

- ・携帯電話やスマートフォンで通話やメール、インターネットをする時間が短い

全国学力・学習状況調査について

全国学力・学習状況調査は、平成19年度に始まった全国一斉の調査です。平成22～24年度は抽出調査(平成23年度は震災の関係で実施を中止)でしたが平成25年度から再び、全国すべての小中学校が対象となりました

◆ 調査の目的

- (1) 児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) 以上のような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

◆ 調査の対象

- 国・公・私立学校の以下の学年、原則として全児童生徒
- ・小学校第6学年
 - ・中学校第3学年

◆ 調査内容

(1) 教科に関する調査

【小学校】

- 国語A・算数A (主として「知識」に関する問題)
- 国語B・算数B (主として「活用」に関する問題)
- 理科 (主として「知識」「活用」に関する問題)

【中学校】

- 国語A・数学A (主として「知識」に関する問題)
- 国語B・数学B (主として「活用」に関する問題)
- 理科 (主として「知識」「活用」に関する問題)

「主として『知識』に関する問題」とは？

これからの学習や生活をしていく上で、確実に身につけておかなければならない基礎的な力を調査する問題

「主として『活用』に関する問題」とは？

身につけた基礎的な力を生かして様々な問題を解決したり、工夫して生活したりする力を調査する問題

(2) 児童生徒に対する質問紙調査

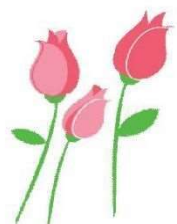
学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する質問

(3) 学校に対する質問紙調査

指導方法や取組、人的・物的な教育条件の整備の状況等

◆ 調査実施日

平成30年4月17日(火)



国語に関する調査結果

国語 A (主として「知識」に関する問題)

《優れている所》

○書写における行書の筆脈のつながりをよく理解しています。

○中国故事の「矛盾」についての文章で、現代仮名遣いにすることや、言葉の成り立ちをよく理解しています。

○登場人物の言動の意味を考え、内容を理解することができています。

《努力を要する所》

○じっくり文章を読み込んで問題の意味を理解し、適切に解答することに課題があります。

○漢字を書くことに課題があります。

○各段落の内容をとらえ、説明するために適切な描写や言葉を選択することに課題があります。

国語 B (主として「活用」に関する問題)

《優れている所》

○古典を読んで、そのあらすじを限られた文字数で文章にすることが全国平均よりも優れています。

○研究発表に対して質問や意見の場面で、全体の流れをつかみ質問の意図を明確にして、表現をすることができています。

《努力を要する所》

○筆者が伝えたい意味を理解するために、深く読み込んでいくことに課題があります。

○グループでの話し合いの最後に、適切な情報や考え方を提示して、まとめることに課題があります。



これまでの取組から

○国語力が上がっています。特に苦手であった「記述式解答」の力がついてきています。授業で文章を書くことによって適切に表現する力がついてきています。

○特に国語Bの応用では、「グループワーク」で聞いている人がわかりやすい発表になるよう、工夫する力がついてきています。

今後の具体的な取組について

○漢字小テストを定期的に行い、反復することで漢字の読み・書きの定着を目指します。

○「グループワーク」を授業に取り入れ、自分の考えをしっかりとめ、相手に伝えたい内容を、分かりやすく表現する力をさらに高めます。

数学に関する調査結果

数 学 A

(主として「知識」に関する問題)

《優れている所》

○連立二元一次方程式問題の正答率が全国平均よりも高いです。特に式に表すことや計算して解くことができます。

○硬貨の表と裏が出る確率の意味と求め方の正答率が、全国平均よりもかなり高いです。

《努力を要する所》

○文章を読み込んで、問題の意味をしっかりと理解して解くことに課題があります。

○図形問題で角度や証明することに課題があります。

○授業で扱ってから時間が経過した学習内容の問題を解くことに課題があります。

数 学 B

(主として「活用」に関する問題)

《優れている所》

○図形を証明した事柄をもとにして、新たな性質を見いだすことができます。

○基本的な計算問題の正答率が高いです。

《努力を要する所》

○図形問題で、証明することや数学的表現を用いてその関係性を表現することに課題があります。

○事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数式で表すことや、的確に処理することに課題があります。



これまでの取組から

○小テストなど、定期的に基本問題を行うことにより、整数の計算問題や文字式の計算問題の正答率が上がってきています。

今後の具体的な取組について

○1年次で実施している「少人数制授業」を継続して展開し、基礎的な知識・理解の向上を図っていきます。

○手作り教材や小テストを実施し、学習意欲につながる「わかる」「できる」授業実践を行います。

○補習や再テストを行い、学力の定着を目指します。

理科に関する調査結果

《優れている所》

- 「化学式」を答えることがとてもよくできています。
- 第1分野の物理的領域に関する問題ができています。特に「電流・電圧から電気抵抗を求める問題」では、基礎的な知識・理解をもとに解答することがよくできています。
- 第2分野の生物的領域の問題ができています。特に人間の刺激に対する反応の問題に関して、全国平均よりも正答率が高いです。
- 実生活からその状況を連想することができる問題の正答率が高いです。

《努力を要する所》

- 水溶液の濃度を指示通りに作る計算問題を解くことに課題があります。
- 「地震計のP波とS波の関係に関する問題」では、音に例えた問題は正答率が高いですが、数値や現象の資料をもとにして、その関係性を表すことに課題があります。
- 「科学的な規則性や多様性を導くために適切にデータを選択すること、処理する」ことに課題があります。



これまでの取組から

- 生活の中の化学・生物・地学領域関連の題材を使用した教材を工夫することで、「実生活の中での科学的事象」を連想して考える力がついてきました。

今後の具体的な取組について

- 学習した内容の定着をはかるため、小テスト、家庭学習の課題を適宜設定し、復習や反復学習を行います。
- 実験等でどう変化するかを考え、発表する力をつけるために、グループワークを取り入れた学習を行います。



生徒質問紙の結果より

学習について

《よかった所》

○「数学の勉強は好きですか」の問いに、「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と回答した生徒が全国平均を上回っています。

○昨年課題であった「家で、学校の宿題をしていますか」では、「している」と回答した生徒が39%から61%に増加しました。

《課題と思われる所》

○「数学や理科の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか」で「当てはまる」と回答した生徒が全国平均よりも下回っています。

生活について

《よかった所》

○「学校の規則を守っていますか」の問いに、「当てはまる」と回答した生徒が全国平均よりもかなり上回っています。

○「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」で、「当てはまる」と回答した生徒が、全国平均よりも上回っています。

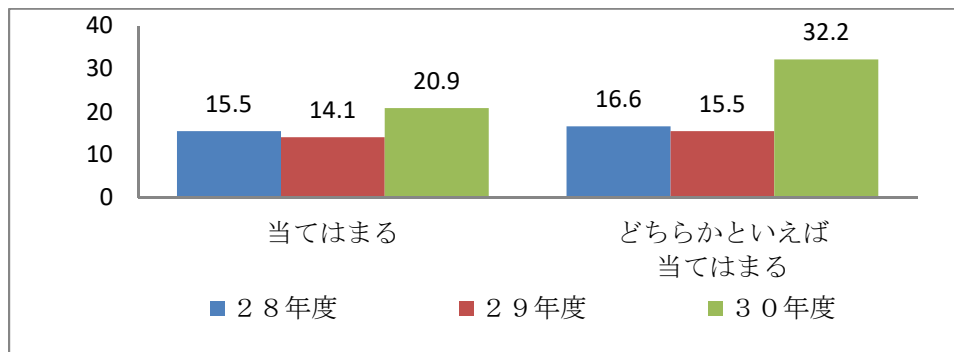
《課題と思われる所》

○「住んでいる地域の問題や行事にかかわっていますか」の問いに、「当てはまる」と回答した生徒が、全国平均よりも下回っています。

これまでの取組から

全校で家庭学習を推進しています。

その結果「家で、学校の予習をしていますか」との問いに対して、下記のグラフのとおり、予習をしている生徒が増加しています。課題であった家庭学習に対して意欲的に取り組む姿勢が見られるようになりました。



今後の具体的な取組について

「家で計画を立てて勉強していますか」の問いに、「していない」と回答する生徒が多いことが課題です。家庭学習での課題確認をし、基礎学力の定着を目指してさらに取り組んでいきます。

ご家庭で取り組んでいただきたいこと

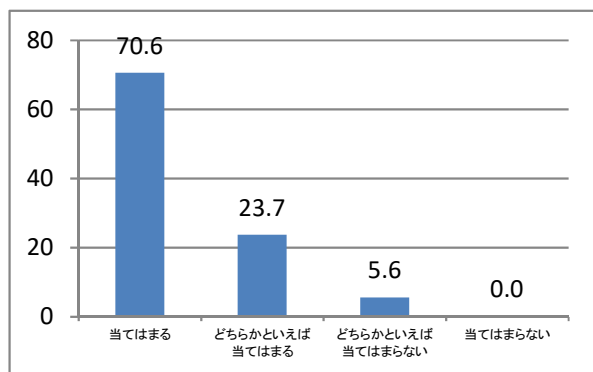
平成30年度全国学力・学習状況調査の結果の分析より、「ご家庭で取り組んでいただきたい3つの項目」をまとめました。

有馬中学校のよさと課題です。さらなる向上を目指して取り組んでいきたい項目です。

1 「思いやり」「貢献する心」を育てましょう。

仲間と協力する心、仲間や人のために貢献する心を育む教育活動に取り組みます。

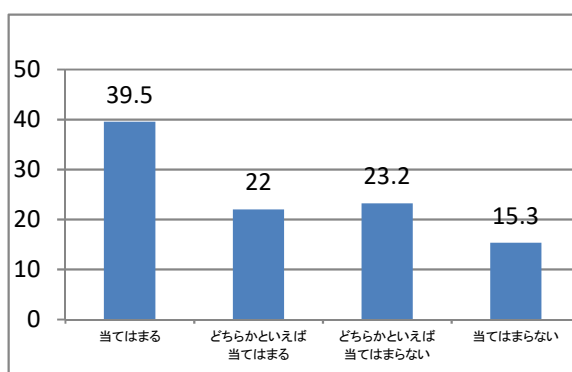
人の役に立つ人間になりたいと思いますか。



2 自分の夢を向かって取り組む姿勢を育てましょう。

自分の夢や目標を持っていると回答した生徒が少なかったです。自分の将来に向けて、自信になる体験活動に取り組みます。

将来の夢や目標を持っていますか。



毎年、全国平均よりも低く、有馬中学校の課題です。今後、改善を目指して取り組んでいきたい項目です。

3 家庭学習に取り組みましょう。

「家庭学習をどれくらいしているか」という問いに対して、「30分未満」「全くしない」と答える生徒が減り、「1時間以上 2時間未満」と答える生徒が増えたことは成果といえます。しかし、「1時間以上」と答えた生徒の割合を全国と比べると少ないことが課題です。学習への意欲をさらに高めたいと思います。家庭学習の習慣づくりに努めましょう。

学校の授業時間以外に、普段(月～金)、1日当たりどれくらいの時間、勉強しますか。

